

平成24年3月から平成25年2月までの掲載分を転載いたします。

平成24年3月2日 Vol.9

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

石巻赤十字病院 放射線技術課 嶋田 雅博

TEL 0225-21-7220 E-mail irad@ishinomaki.jrc.or.jp



あいさつ …

東日本大震災から、一年が過ぎようとしています。まだまだ東北地方は、雪が舞った震災当日の様な寒い日々が続いています。私達は、全国の皆様の温かな御支援を糧に、復興に力を尽くしています。石巻魂！ 前進石巻！
うまいさかま、お寿司も復活しつつあります。



ウチの取り組み！

当放射線技術課の取り組みのいくつかを紹介します。

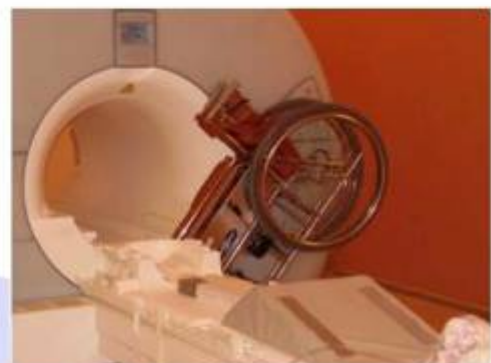
- ①患者さんに氏名、生年月日を名乗ってもらいます。
 - ②毎朝、各装置の担当者が始業点検を行い、機器の調子を見てから検査を始めています。
 - ③CT検査を受ける患者さんの禁忌事項、腎機能、連絡事項をホワイトボードに書き出し、医師、看護師、技師の情報の共有化をはかっています。
 - ④病気、症状に合わせたCTのプロトコルを作成し、検査漏れのないようにしています。
 - ⑤若手技師が中心となって、定期勉強会を開催し、知識を深めています。
- 等々

患者確認が不十分な時は、集中力が散漫になっており、思い込みの要素も加わって、間違いが起きています。患者確認は確実にいきましょう。



再発防止に向けて！

アクシデント事例の一つ。幸いなことに患者さんに怪我はなかったのですが、MRI非対応の車いすを持ち込んだ事によって発生した吸着事故がありました。対策の一環として、チェックシートの作成、春には全職員を対象にMRIの安全講習会を行っています。



他院の取り組みを参考に、インシデント・アクシデントレポートの検証を行い、事故の芽を摘んでいこうと思います。

担当者から一言



医療事業部 医療安全課

次は 飯山赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年3月9日 Vol.10

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

伊豆赤十字病院 所属 放射線課 氏名 土田 真嗣

Tel 0558-72-2148 E-mail qq7x3qx9n@juno.ocn.ne.jp

こんにちは！伊豆赤十字病院です。

当院は伊豆半島の中央、伊豆市に位置し、山、川、海に囲まれた自然豊かな環境です。伊豆市の人口は約35,000人で高齢化率は30%を超えており、複雑な地形もあいまって病床数94と大きくはなくとも地域医療にとってニーズの高い病院です。地方小規模病院のご多間に漏れず医師確保に悩まされており、常時募集中の状態です。しかし、職員一同、少しでも多く地域医療に寄与出来るよう職務に励んでいきます。



うちの取り組み！

よくニュースなどで人工呼吸器の接続不良事故等を見かけます。放射線技師の分野ではポータブル撮影などで同様の危険性がある為、従前より確認を行っていましたが目視によるものでした。当院では技師2名で病棟でのポータブル撮影を行っておりますが、より確実な確認を行い未然に防止する為に、撮影の終了時にはダブルチェックと実施の証明という意味合いで、2名で患者さんに接続されている装置・器具等を“指差し”および“よし”との声だしにて確認することにしております。

再発防止に向けて！

患者さんをフルネームでお呼びして“はい”とおっしゃった方が、“次は私が呼ばれるに違いない”と思い込んだ方で人違いだった、といった事例が発生しました。そこで患者さんの確認を誤りなく実施する為、患者さんご本人に（無理な場合は付き添いの方などに）フルネームをおっしゃっていただくように改善しました。目新しい対策ではありませんが、現在のところ再発事例はありません。



先日、KYTIについての院内研修がありました。インシデントやアクシデントの事例に対する分析・対策だけでなく、未然に防止する意味で少しずつではありますが見直しに取り組んでおります。



医療事業部 医療安全課

次は 今津赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年3月16日 Vol.11

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

今津赤十字病院 所属 放射線技術課 高橋 和佳子

Tel 092-806-2111 E-mail syomu@imazu-jrc.jp

ご挨拶……

今津赤十字病院は、福岡市の西部(玄海国定公園内)に位置しており、目の前に今津湾が広がります。

当院の特色としては、患者様の平均年齢が85歳(最高103歳)と高齢で、主に老年病・認知症の治療が専門です。

病床数	一般病棟	52床	
	精神(認知症)病棟	60床	
	特殊疾患病床	38床	
	介護型療養病棟	30床	計 180床
			放射線技師 2名



「今津日赤の外観」



「病室からの眺め」Yahooドーム・福岡タワーが見えます

うちの取り組み！



「放射線課 受付」



「いろいろな手作り撮影補助具」

当院は高齢の患者様と認知症の患者様が多く、撮影時に患者様本人による確認が困難な場合が多くあります。他院ではよく本人確認のリストバンドを見かけますが、当院では認知症の患者様が異食してしまう恐れがあるので使用していません。

ですから、すべての撮影検査において、患者様本人 & ご家族や施設の方 & 担当ナースやスタッフと放射線技師で二回三回・・・と確認し、撮影患者誤認を防いでいます。

また、寝たきりの方・円背や拘縮のある方・足腰の悪い方・皮膚の弱い方など多く、撮影時ポジショニングの際は、撮影の妨げにならないよう固定具やクッション等を使用することで、患者様の痛みや負担を軽減させながら、安定した撮影体位を確保し、「転倒や落下」「表皮剥離」「点滴や尿道カテーテル等のルート巻き込み」など起こらないよう、細心の注意をし、技師とスタッフ、最低2名以上によるサポートで撮影を行っています。

事故防止に向けて！

ヒューマンエラーは、忙しい時や「思い込み」が原因で起こることが多いです。どんな時でも心に余裕を持ち、正確な情報交換 & 把握が出来るよう、日頃からのスタッフ間のコミュニケーションを大切に、「安全に」そして「円滑に」業務が出来るよう、努めてまいります。

患者様から「痛くなかった」「怖くなかった」

「楽ちんだった」など言ってもらえると、心からうれしく思います。



「放射線課スタッフ」



医療事業部 医療安全課

次は 徳島赤十字ひのみね総合療育センターからお知恵拝借！！

平成24年3月23日 Vol.12

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

徳島赤十字ひのみね総合療育センター 所属:放射線 氏名:阿部 礼治

TEL 0885-32-0903

あいさつ …

当センターは小児科、整形外科、内科、歯科を標榜する病床数140床の病院であり、50床の生活施設も併設されている病院で、主に肢体不自由・重症心身障害・発達障害・身体障害を対象とした医療型福祉施設として事業を展開しています。また、平成23年11月28日より診療棟が新たに開設され、それに伴い、放射線課も新棟へ移設されました。



うちの取り組み！

当センターの放射線課は一般撮影装置2台・ポータブル撮影装置1台・外科用X線テレビ1台・CT撮影装置1台で診療を行なっています。診療放射線技師1名で撮影をしておりますので、以前は撮影部位間違いであったり、撮影方向数等に対して、抜けや間違いを生じていることが多々ありました。しかし、現在は外来看護師の協力のもと、2人3脚で撮影指示書のダブルチェックを行うこととしました。ダブルチェックによる効果は大きく、随分人的ミスを減らすことができました。

再発防止に向けて！

当センターは、幼児・小児や障害児者の患者様が多く、なかなか話を聞いていただけない状況もあり、目視確認のみでの撮影がほとんどです。以前、患者様の動きに着目するあまり、撮影台にしがみつく手に目が行き届かず、撮影台を動かした際に撮影台に挟んでしまう事故が発生しました。そういった事故を避けるために、目が行き届かない所に対して、医師や看護師さんの目をお借りし指差し確認、声出し確認を行った後に撮影台を動かすこととしています。



当センターは、旧施設の全面改修を行っており、私としても、新たな気持ちでの再スタートを切ることができるタイミングです。入社時の新鮮な気持ちを忘れないで、患者様への最良の医療を提供できるように日々診療に当たりたいと考えています。



阿部から一言



医療事業部 医療安全課

次は 飯山赤十字病院からお知恵拝借！！

平成24年3月30日 Vol.13

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

飯山赤十字病院 所属 氏名 高澤茂正

TEL 0269-65-3851

豪雪で有名な長野県最北端の赤十字病院です。
今年は平成18年以来の稀にみる大雪で、県下赤十字の方々から除雪の応援に来て頂き、ありがとうございました。
冬は豪雪と数多くのスキー場から患者さんの受け入れで忙しいへんでした。
最近やっと春の訪れを感じ始めたところです。



うちの取り組み！

当院放射線科は病診連携のCT、MRIの予約を受けています。開業医からの電話を受け、通常業務の合間に検査の予約をダミー患者でHISの予約画面を開き入力しています。しかし予約漏れがあったり、患者さんがブッキングしてしまったり問題になりました。そこで、検査予約票に技師が記入してHISの画面に入力したら、その予約票を他の技師がRISの画面でダブルチェックをするようにしました。それ以来、一度も予約漏れが無く、今まで取り組んだ中で一番有効な対策でした。

再発防止に向けて！

放射線科はいろいろなモダリティーがあるので、そのモダリティーごとに安全に検査をするためのマニュアルを作成し、担当が変わった場合は確認しています。特にMRIは注意が必要で普段は担当していないが、当直で操作する技師は特に確認するようにしています。



MRMの対策とはいえ、なかなか運用でしか対策がたてられないのが現状です。
ハード面で対策ができれば完璧ですがお金がかかるので難しいところです。
また、いつのまにかタンスの中にしまい込んでしまった対策もたくさんあるような気がします。



医療事業部 医療安全課

次は 日本赤十字社 医療センター からお知恵拝借！！

平成24年4月6日 Vol.14

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

日本赤十字社医療センター 医療技術部放射線科 本多 絵美

Tel 03-3400-1311 E-mail rad-therapy@med.jrc.or.jp

はじめまして。

医療センター内にある「二代目宗吾の松」ってご存知ですか？
推定樹齢300年、枝張り18mの盆栽仕立てで、とても美しい赤松です。
その松の向かいには保健、医療、看護、福祉のサービスを展開する、
新しい都市型モデルとしての「総合医療福祉センター」が今月開設しました。



ウチの取り組み！

当センターは3次救急対応のため、昼夜問わず様々な状況の患者さまが運ばれてきます。そのため搬送されると同時に、CT検査を行うケースが増えてきました。高エネルギー交通外傷などが多く、出血等に対応する技師・装置・室内の感染対策、消毒や清掃が必須となっています。次々来る撮影に対し、安全に素早く対応できるようディスプレイのシートを利用しています。



取り組みから発展させて！

季節がら様々なウィルス性の感染も気をつけなければなりません。放射線部が感染の媒体にならないよう意識をしています。感染対策スタッフと相談し、すべての撮影業務に対して簡便で安全な消毒方法を講じ応用しています。



多忙と緊張の毎日ですが、笑顔忘れず業務に従事することを心がけてます。



医療事業部 医療安全課

次は 浦河赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

浦河赤十字病院 放射線科部 大沼 孝司

TEL 0146-22-5111 E-mail oonuma@urakawajrc.or.jp

あいさつ

当院のある浦河町は人口14000人ほどの北海道日高地方にある馬の生産と漁業を中心とした町です。2次救急病院の指定を受け近隣の救急車の受け入れも行っております。現在病院の増改築工事が行われておりベット数は減少しますが近代的な施設に生まれ変わろうとしております。放射線科部は現在放射線技師6名で、乳腺撮影専門認定者3名、環境測定者2名が資格を有しがんばっております。



7月に第1期工事が完成します

ウチの取り組み！

当院では月に一度、医療安全推進委員会を開催し月毎のインシデント症例を報告してもらい、各職場で参考にしております。

放射線科部の主たるインシデントは、

①呼び入れ間違い ②装置に頭などをぶつける ③患者さんを取り違えて撮影 ④左右の間違いなどでちょっとした事が大きな事故に結びついていることが多く、これらの再発防止と安心安全を求めて日々努力をしております。また、当院の看護部は研修会を多く開催しておりますので、必要とあれば積極的に参加し、研鑽を積んでおります。なかでもKYT研修は大変有益で、ホータル装置を運んでいるときなどは待合患者さんの足や、角の有る場所、病室から人が飛び出してこないかなど危険予知の訓練に役立っております。

再発防止に向けて！

- ①については受付で呼び入れ、再度撮影室でも名前を確認。または患者さんに名前を言ってもらう。
- ②について、装置があることに気づいていても後から忘れていたことがあったり、目に入らなかった事でぶつけているケースがある。患者さんや職員の導線上に装置を置かないように注意をはらう。
- ③について名前を声に出して確認し撮影したカセット（ホータルなど）の番号を書き留め、撮影後も再度確認する。
- ④について声を出して左右を確認し“こちらですね”と触れて確認を求める。



完成予想図

医療安全についても仕事の内容についても他の部署とのコミュニケーションを大切に、声を掛け合ったり、返事を返すなどちょっとした気遣いが事故を防ぐものと考えております。装置の更新も考えており、安心安全を考慮して指導していきたいと思っております。



職場長 から一言

平成24年4月20日 Vol.16

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大分赤十字病院 放射線科部 櫛野 恭治

TEL 097-532-6181 E-mail oitahousya@oita-rc-hp.jp

ご挨拶 …

大分赤十字病院は、大分市の中心部に位置しており交通の便も良い所です。さらに、市街地にあるので飲食街まで徒歩1分です。ご案内しますので遊びに来て下さい。おいしい郷土料理や温泉が待っております。

当院は、昭和27年4月に大分共済病院を譲り受け大分赤十字病院として発足しました。地域がん診療連携拠点病院、災害拠点病院、第二次救急指定病院に認定されており、計26科の診療科目がある340床の病院です。



ウチの取り組み！

当院では、透視室や血管造影室等の放射線管理区域に、介助等で立ち入る医療従事者を対象として『放射線管理手帳』を配布し、個人の被ばく管理を行っています。（今年度4月より開始しました）

ポケット線量計にて被ばく線量を測定し、各自の手帳に記入しています。

以前は、放射線科で個人被ばくの管理をしていました。各自に被ばく線量を伝える事で、被ばくに関心を持ってもらう為、管理手帳を導入しました。（数値が低くなる為に必要な事を、各自が考えるようになってもらえればと思っています）

事故防止に向けて！

当院には、一般撮影用のX線管球が5台あります。定期的に各管球の線量を測定し精度管理を行っています。ThinX RADという測定器を用いて、設定した撮影条件に対して変動がないかチェックしています。変動の値が大きいと、画質の劣化や過剰被ばく等が懸念されるので事故防止のため取り組んでいます。



各施設、色々な取り組み、事故防止を参考にさせていただきます。

これからもインシデント・アクシデントを少しでも減らせるように職員一同努力して日常の業務に励んでいきたいと思っております。



医療事業部 医療安全課

次は 大阪赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年4月27日 Vol.17

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大阪赤十字病院 放射線診断科 谷坂 晃正

TEL 06-6774-5111

あいさつ ...

当院は大阪市の中心部に位置し明治42年に開設され、100年を越える歴史があり標榜診療科は26科、病床数1021床の地域の中核病院であります。大阪府災害拠点病院に指定され、年に一度全職員参加で午後は外来通常業務を全てストップして、大阪市消防局、大阪府警、大阪市水道局、陸上自衛隊など、多くの関係機関が参加して大規模な院内災害訓練を行なっています。



ウチの取り組み！

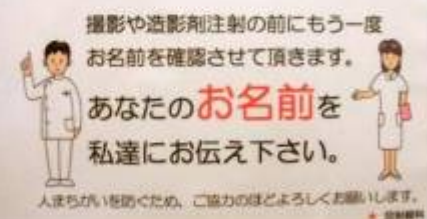
MRI検査における説明用DVDを作成いたしました。MRI検査の注意事項等は事前に手渡されているパンフレットや予約表に説明を明記していますが検査に関する問い合わせは減らず、さらに理解を深めていただくために検査説明用DVDをスタッフ自ら出演、作成し検査の待ち時間の間に患者様に見てもらっています。



再発防止に向けて！

以前は待合廊下で待っている患者様をお呼びした際に、診察券と予約票のみでの確認であった為、よく似た名前の患者様が間違っに入ってこられ、そのまま撮影してしまったケースが有りました。現在はそのような間違いを防ぐため更衣室や撮影室に入室の際にスタッフが「確認のためお名前を教えてくださいませんか？」と声かけをし、患者様本人に名前を言っていただくよう徹底しています。さらに造影剤の注射時には医師や看護師より再度名前の確認を行なっています。

患者様にお願いします。



大きな病院ゆえにスタッフ間の情報の伝達が難しい部分ではありますが、様々なインシデント事例等をスタッフ同士で共有しあえるような環境づくりを心がけて頑張っていきたいと思っています。



医療事業部 医療安全課

次は 大田原赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大田原赤十字病院 放射線科部 放射線技術課 係長 中野 繁明

TEL 0287-23-1122 E-mail houshasen@ohtawara-jrc.com

あいさつ

当院は栃木県北部、いわゆる那須エリアに位置し医療圏人口約39万人における地域の急性期医療を担う中核病院です。県北部では唯一の救命救急センターを有しています。昨年の震災では、震度6強に見舞われ、病棟1棟（180床）が閉鎖に追い込まれましたが、今年7月に移転することを目標に頑張っています。



ウチの取り組み！

「検査を受けられる方に、安全・安心を！」をモットーに科内一同頑張っております。造影剤使用による腎障害発生リスク低減、血管外漏出の低減・MRIにおける吸着事故・発熱障害の予防。CT、MRI部門における安全対策として「共通の処置室」を設けることにより、一貫した管理のもとに検査を施行できるように配置しました。



再発防止に向けて！

チェック漏れをなくす為、造影剤同意書を取る際にCT、MRI用の問診票を作成し、事前にチェック。CTにおいては、造影剤や薬剤アレルギーの有無、現在飲んでいる薬剤、過去の喘息の有無等。MRIでは、磁性体の持ち込み防止のためにチェック漏れがないように工夫しています。問診票を使用することにより、順序よく確実に漏れなくチェックできています。



平成24年7月開院



医療事業部 医療安全課

放射線科処置室のベテランナースと看護助手さんに、いつも助けられています。的確な患者観察による異常の早期発見、患者さんとのコミュニケーション術は、まだまだ我々技師が勉強しなければいけないことだと感じております。



処置室スタッフと筆者

次は 大津赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年5月18日 Vol.19

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大津赤十字病院 放射線科部 沢尾 誠

Tel 077-522-4131 E-mail o2-hosha@otsujrc.or.jp

当院は国産初の交流電源を使用したX線装置第1号機が、設置された歴史ある病院です。

近くには桜の名所で有名な三井寺や疎水があり、玄関のしだれ桜もきれいに咲いていました。

また長良山の山中にあり、最上階からは琵琶湖を一望でき、眺めが綺麗です。



うちの取り組み！

患者間違い防止のため、患者さんに自称してもらい、担当技師は責任感を持つため自己紹介を兼ね名乗っています。一般撮影では左右間違いやA-P、P-A間違いのないように鉛マークの色を変えています。またオーダーリングシステムは、部位間違いを起こさないように視覚的に見分けられる工夫をしています。

(例 頭部、胸部、腹部→頭蓋部、胸部、腹部に変更)

インシデントが発生するとレポートの提出以外に、毎週部内ミーティングで情報を共有し、再発防止に努めています。

今年の2月には医療安全啓蒙のために、部内勉強会として『ヒューマンファクターの観点からみた医療安全』の講習会を行いました。

再発防止に向けて！

MR検査で2年前から金属探知機による衣服等のチェックを行っていましたが、最近2度も耳に埋め込むタイプの補聴器の持ち込みがありました。

現在では、外来・入院とも患者さん自身(患者さんが記入できない場合は代理で)に【MR検査前チェックリスト】を記入してもらい、入室直前に金属探知機でもう一度確認しています。

また院内での医療安全情報により、このインシデント事例を全職員へ情報共有を図りました。

検査室内に金属を持ち込まない、持ち込ませないが、放射線技師の責務と思っています。



『医療安全への取り組みは、終わりの無い戦いである。』
と つくづく実感しています。



担当者から一言



医療事業部 医療安全課

次は 大津赤十字志賀病院 からお知恵拝借！！

平成24年5月25日 Vol.20

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

大津赤十字志賀病院 放射線科部

TEL077-594-8777 FAX077-594-8778

あいさつ …

前号で紹介のあった大津赤十字病院から北に約20kmほど、大津市と高島市の中間に、私たちの志賀病院があります。本院は、ちょうど今から10年前に開院し、その前身が国立療養所でもあることから、病院は比良山系を背景に、雄大な自然に囲まれた高台に位置し、病室からは四季折々の琵琶湖の風情ある景観が楽しめ、落ち着いた雰囲気の中で療養して頂けるようになっています。



ウチの取り組み！

診療放射線技師3人に対し、一般撮影室、CT室、MR室、X線TV室と、技師の人数以上の検査室、機器があります。午前中はどの部屋でも検査を行っているため、自分が担当している検査以外のフォローに回することはなかなかできません。特に一般撮影では患者さんの入れ替りが早く、撮影の準備、患者さんの介助、検査内容の説明などをおこなっていると、ついつい左右の確認などが疎かになってしまいがちです。そこで一人でも確認を確実にできるように撮影装置に付属しているモニターを利用しています。モニター上には名前や撮影部位だけでなく、左右や照射方向も表示されるよう設定してあるため、患者さんにこのモニターを見てもらいながら確認を行っています。名前の漢字を確認してもらうことにより、同姓同名患者さんの呼び入れ間違い防止にもつながっています。

再発防止に向けて！

意思疎通困難な患者さんや介助が必要な患者さんの場合には、転倒・転落等防止のため、移動介助は2人以上の技師で検査に携われるよう声を掛け合い、各検査を行っています。



医療安全担当者 から一言

医療安全の向上の為に、定期的に現状の運用を振り返り、見つめ直すことも大切です。



医療事業部 医療安全課

次は 大森赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年6月1日 Vol.21

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

岡山赤十字病院 放射線科

TEL 086-222-8811

当院は現在501床を抱えておりますが、現在の本館病棟が次第に手狭になったため、別館として7階建て210床規模の新病棟を建設しています。完成は2015年5月を予定しており、1階には外来化学療法室、放射線治療室などを配置しており地域がん診療連携拠点病院としての機能の充実を目指しています。

また5月1日よりついに電子カルテを導入しました。昨年より準備を進めてきましたが、大きな混乱を避けるために全職員が協力して順調に稼働できるように努力しています。



ウチの取り組み！

放射線科では検査の前に金属などを外していただいておりますが、最近患者様の貴重品が紛失する事件が起きました。そこで患者様の忘れ物対策として、荷物置きのかごの中に小物入れを設置しました。ネックレスや時計、ピアスなど貴重品置き場として利用していただいております。まだ設置して日は浅いですが、今後効果が出ることを期待しています。

再発防止に向けて！

それぞれの部署の担当技師が患者様が貴重品をどこに置かれたか、またきちんと持ち帰られたかのチェックを怠らないことが大切だと思います。



3月29日より3.0TのMRI装置が増設され、稼働を始めました。高画質で細かい解剖構造を描出することが可能ですが、金属の持ち込みによる事故の危険性が高まりますので、これまで以上に厳重な注意をしていくように努めたいと思います。



 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 小川赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年6月8日 Vol.22

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

小川赤十字病院 放射線科部 小川 清

TEL 0493-72-2333 E-mail k-ogawa@ogawajrc.or.jp

あいさつ・・・

当院のある小川町は、埼玉県の中央よりやや西部に位置し、周囲を緑豊かな外秩父の山々に囲まれ、町中を槻川が流れる自然豊かな街です。和紙や建具、日本酒造等の伝統産業が栄え、800年来の歴史を誇り、武蔵の小京都と呼ばれるようになりました。当院は昭和14年に開設され、現在は2次救急対応として地域医療に貢献する病院です。



ウチの取り組み！

当科部では2003年(平成15年度)から、「ヒヤリハットレポート」の提出を開始し、その後「インシデント・アクシデントレポート」と名を変え、平成24年4月まで125件のレポートが提出されました。当初は科内で検討会を行っていましたが、医療安全推進室の開設と共に事例検討会の内容を、院内に発表するようになりました。さて放射線科部での医療安全の根本は「**患者確認**」です。デジタル撮影となり、より重要性を増しており、平成24年度の目標として患者誤認ゼロを挙げました。そして当科部では、「**患者さんから名乗って頂く**」ことを第一原則としております。撮影室に入ってから、指示票をもとに患者さんに「確認のためにお名前をお願いします」と依頼すると、ほとんどの患者さんが「フルネーム」でお答えいただけます。ここで患者さんと担当する診療放射線技師の信頼の一步が築かれます。他方、撮影室では、こちらから「担当します〇〇と申します。よろしくをお願いします。」と我々から名乗り、検査に入ります。検査説明の前に名乗ることで「患者さんからもよろしくをお願いします」と会話のキャッチボールが生まれ、患者さんとよい撮影環境ができます。

再発防止に向けて！

運用は必ず緩みます。適宜引き締めることや予告なしの確認も必要だと思います。また個人情報の観点から、廊下等の場所でフルネームで呼ばれることを嫌がる患者さんもいますので、今後は番号でお呼びする方法も検討していきます。確実性とプライバシー保護の高度な一致点を目指して、スタッフ一同頑張っていきたいと思っております。



笑顔を忘れず、安全で安心できる業務を目指して、全員で頑張っています



医療事業部 医療安全課

次は 沖縄赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年6月15日 Vol.23

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

長岡赤十字病院 入澤 佳弘

TEL 0258-28-3600 E-mail irisawa_nrc@yahoo.co.jp

あいさつ

当院は、平成9年に「長岡市日赤町」から、現在の場所に移転いたしました。新潟長岡といえば、8月の花火大会が有名ですが、当院は打ち上げ場所に最も近く、花火見物には絶好の場所です。(入院していればの話ですが。)
平成16年の中越地震、平成19年の中越沖地震と被災しましたが、職員全員で基幹災害医療センターとしての役割をはたしてまいりました。
また、全国の皆様からの熱い支援、本当にありがとうございました。
今冬は、例年になく「大雪」でした。大雪の年は「猛暑の夏に」という話もありますが節電のためにも涼しい夏であることを祈ります。



ウチの取り組み！

放射線科ではヨード造影剤、ガドリニウム造影剤が多く使用されます。造影剤腎症(CIN)、腎性全身性線維症(NSF)の発生を予防するために、eGFRを指標として造影剤の減量、造影不可の決定を行います。
当科では、前回のRIS更新時に検査依頼画面に腎機能検査の値とeGFRを表示できるようにしました。当院のHISとRISはメーカーが違うため、腎機能をHISにて確認していましたが、RISにて腎機能を確認できることにより、適切な造影検査が実施できます。

RIS画面の一部です。

情報	
検査日	クレアチニン:0.82 / 2011/12/29
検査日	eGFR:77.6 / 2011/12/29
情報	
名称	CT

再発防止に向けて！

当院では昨年の「医療安全週間」に合わせ、「安全対策マニュアル遵守自己チェック」を行いました。全職員共通に「マニュアルの周知」「患者確認」をあげ、「誤認防止」に取り組みました。放射線科は、「患者確認」で「フルネームで呼び、患者自身に名乗ってもらう」を実施しているものが約50%という結果になりました。以前から患者間違いの報告が他科より多いと思い、早速、技師全員が集まり「安全対策の話し合い」を実施しました。患者自身に名乗ってもらうこと、患者情報の確認方法をモダリティ別に提案し、継続して実施するようにしました。また、定期的に話し合いを行い、安全対策の意識の向上と患者確認の習慣化を目指します。受付から検査終了までの全体を考えた「患者確認」「誤認防止」対策も必要と考えます。安全対策と関連性の少ない話題も出ますが、それも「OK」です。

AEDの普及で救命処置への意識は高くなっていますが、皆さん、蘇生処置できますか？医療人としてだけでなく、一般市民としても必要な技術と知識です。当科も放射線技師全員が「適切なチーム蘇生」の一員として活動できるようにICLS、BLSなどを積極的に受講しています。



BLS講習会(安全対策室主催)



医療事業部 医療安全課

次は 置戸赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年6月22日 Vol.24

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

置戸赤十字病院 医療技術部 放射線技術課長 谷川 道一

TEL 0157-52-3321 E-mail oketo133@yahoo.co.jp

あいさつ ...

置戸赤十字病院は、北海道の大雪山連峰東端に位置する「緑と清流の町」置戸町にあります。置戸町は、人口およそ3千人ほどの小さな町ですが、緑に囲まれ鹿ノ子ダム、おけと湖、温泉など自然にあふれた美しい町です。また、「オケクラフト」などの木工特産品や「人間ばん馬大会」でも有名です。

病院は、町の中心部にあり、これからの時季(7月ごろ)には、ここ中心街は、見事なまでの花でいっぱいになり、私たち職員や患者さんの心を癒してくれます。



うちの取り組み！

当院に来院するほとんどの患者さんが高齢者であるため、放射線課撮影室内における撮影中及び検査前後の患者さんの転倒・転落には、最善の注意を払っています。

過去に、胸部撮影直後に転倒し、顔面を床に強打した事例がありました。撮影が終わった直後は、撮影という目的が終わった瞬間 ふと安心してしまい撮影者及び患者さん自身も気が緩む瞬間でもあります。

撮影が終了し、撮影室から退出するまでは、患者さんから目を離さないよう、注意喚起を徹底しています。

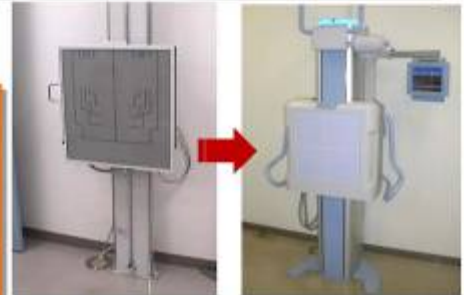


再発防止に向けて！

放射線技術課では、事例より転倒・転落の再発防止に真剣に取り組みました。

捕まることの出来なかった旧式の立位ブッキー台を買い替え、「握り棒」の豊富な立位撮影装置を導入しました。また、CR読取装置と画像モニターを撮影室内にも設置し、ふらつく方や寝たきりの方・救急の患者さんなど、目の離せない患者さんにおいて、撮影後も患者さんから離れることなくIPカセットを挿入、その場(撮影室内)で画像確認が出来るよう設置しました。

患者さんが撮影室に入室してから退室するに至るまで、患者さんのそばで、安全に気を配りながら、撮影出来るようになりました。



<私のひとりごと>

我々(放射線技師)の仕事は、患者さんと接する業務がほとんど・・・。今日もまた第六感を使って、放射線業務(医療安全)に取り組みます！！



医療事業部 医療安全課

次は 柏原赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

柏原赤十字病院 放射線技術課 川上 範文

TEL 0795-72-0555 E-mail houshasen@kaibara.jrc.or.jp

あいさつ …

当院は兵庫県中央東部に位置し、昭和10年に町立柏原病院から赤十字社に移管され75年、さらにさかのぼって郡立柏原病院からは112年の歴史を持っています。

昨年8月にはクラウド型電子カルテとPACSを導入しました。また、神戸赤十字病院放射線科の協力のもとCT検査の遠隔画像診断も行っています。今後、訪問看護でWebカメラを使った遠隔診察の実現を目指しています。

地域住民から愛され、親しまれる病院となるよう日々努力しています。



うちの取り組み！

当院の撮影室のドアは外開きドアとなっております。以前、扉を開けた際その前に患者さんが立っておられ扉と衝突されケガを負わせてしまいました。

その後放射線技術課内で対策を検討しあった結果、以下の方法で注意喚起を行う事にしました。

- 1) 技師が名前をお呼びするまでイスに座って待機してもらう
- 2) ドアの手前に黄色い線を引き、止まってもらう目印にする
- 3) 分かりやすい注意喚起のポスターを貼る

再発防止に向けて！

まず受付時に口頭にて説明を行い、イスに座って待っていただき、スタッフ間同士で声を掛け合うように心がけています。同じ事故が起きないように再発防止に努めていきます。



黄色の線

現在スタッフ3名で、うち1人は今年4月からの新人職員です。少ない人数ではありますが、24時間体制で救急に対応しております。高齢者の多い地域ですので安全にはより細心の注意をはらい、地域医療に取り組んでいきたいと思っております。

レントゲン検査を受けられる方へ
お呼びするまで
座ってお待ちください。

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

金沢赤十字病院 放射線科部 中川亮二

TEL 076-273-4641 E-mail radi@kanazawa-rc-hosp.jp

金沢赤十字病院は、石川県の金沢市南西部の住宅地にあり、金沢市南西部、野々市市、白山市など近隣の住民の方々に利用され支えられている地域に根差した病院です。放射線科では、放射線科常勤医師2名、非常勤医師1名、診療放射線技師7名、パート技師1名、放射線科所属看護師2名、パート看護師1名、事務職員1名のスタッフにより放射線等を利用し、多くの医療情報を提供しております。現在新病棟建築、既存病棟改修等を進めており、平成26年夏に完成予定です。



完成予定図

再発防止に向けて！

MRI検査施行に対して入室前にチェックリストを2回使用します。1回目は各科外来、病棟にて、看護師目線の内容のチェックリストを使用し、2回目は入室直前に放射線技師がさらに細かい内容のチェックを行い、金属探知機で最終確認をします。何度も同じことを聞かれて、いやな顔をする患者さんもいますが、以前あった補聴器や腕時計を装着したまま入室されて故障するというケースはなくなりました。



金沢城(菱櫓・五十間長巻等)

ウチの取り組み！

平成24年3月2日Vol. 9の取り組みを参考にさせていただき、CT検査室のホワイトボードの見直しを行いました。患者氏名、主治医名、腎機能、禁忌事項、同意書の有無等、医師、看護師、技師の情報の共有化をはかることにしました。



21世紀美術館



以前



現在

石巻赤十字病院放射線技術課のみなさま、お知恵ありがとうございました。今後も知恵の輪を参考にして、良いものをどんどん取り入れていきたいと思っています。

担当者から一言



医療事業部 医療安全課

次は 鹿児島赤十字病院 からお知恵拝借！！



エソムラサキツツジ
(留辺薬町温根湯)

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



菊まつり
(北見)

北見赤十字病院 放射線科部 石黒 智之

TEL 0157-24-3115 E-mail ishiguro_tomoyuki@kitami.jrc.or.jp

北見赤十字病院は、北海道の東部・オホーツク圏に位置しています。
 北見市は2006年に旧北見市と周辺3町(留辺薬町・端野町・常呂町)と合併して全国で4番目に面積が大きなマチになりました。
 名物・名所も「ハッカ」「玉ねぎ」「ホタテ」「焼肉」「オホーツク塩焼きそば」「北見地ビール」「カーリング」「カレーライスマラソン」「温根湯温泉」等々、四季を楽しめる味覚や祭事がたくさんあります。
 みなさん一度、北見に遊びに来て下さい。



極寒の焼肉まつり(2月)
氷点下10度の屋外で
1500人が集まる焼肉

うちの取り組み！

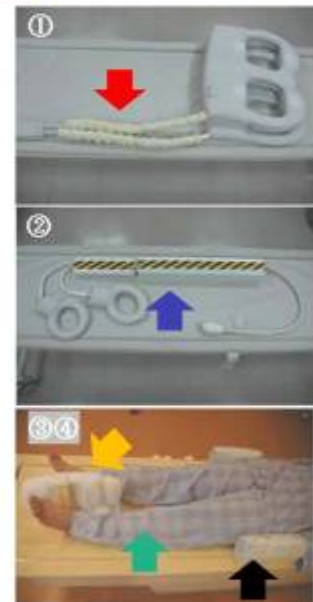
MRI検査時の【発熱対策】について紹介します。MRI検査ではRF波による発熱の危険性があります。もしも、熱傷がおきてしまった場合には、重大なアクシデントになってしまうため、ループ形成には十分に注意して、検査を行っています。

○[コイルケーブルの発熱]の対策

- ①人体とケーブルが触れやすい部分に、断熱効果のあるスポンジを巻く。
- ②ケーブルを、プラダンボールで覆う。

○[体の作るループの発熱]の対策

- ③足のループを作らないように検査着をガウンタイプからズボンタイプに変更。
- ④脚が開いた状態をキープするように、両脚の間に置くスペーサーを作成。
(手と体に対するループ対策にはプラダンボールで手を覆うものを作成して、現在試月中です。)



* 認証用バトランプ
 撮影室などのRIS端末から離れた場所でも、光る事で、認証確認が行えます。



* バーコード読み込み画面

再発防止に向けて！

【患者様間違え】が発生する事があり、患者様に氏名・生年月日を名乗っていただき確認をしていました。
 今年の3月からのRIS・PACSシステムの更新に伴い、6月から、患者認証システムの導入をして、患者認証を各モダリティで行っています。
 従来通り患者様に氏名・生年月日を名乗っていただき確認をして、外来は基本表・受付表で認証を行い、入院は、リストバンドの患者IDバーコードで認証を行っています。細心の注意を払い、間違え防止を心がけています。

心にゆとりを持って仕事に取り組み、患者さんとのコミュニケーションを大切に
 して、事故防止を念頭に置き、安心できる医療を提供していきたく思います。



医療事業部 医療安全課

担当者から一言

次は 京都第一赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年7月20日 Vol.28

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

京都第一赤十字病院 放射線診断科部 撮影係長 前田 健一

TEL 075-561-1121

あいさつ

当院は京都の東山区にあり、病院の南側には紅葉で有名な東福寺があり、秋の行楽シーズンには、多くの観光客が訪れ、トイレに行列ができます。

今年の9月には建築中の新棟が稼働をはじめ、放射線科が大移動します。移動は大変かと思いますが、新しい所で働ける期待も大きいです。



ウチの取り組み！

MR I 室には注意書きのポスターを掲示しています。検査前にそのポスターを患者さんと一緒に見ながら注意事項を確認しています。



再発防止に向けて！

これまでに患者の名前間違いがありました。受付で提示するIDカードが違っており、さらに撮影室でも名前の確認を怠ったことによるものでした。

これにより、受付時に名乗ってもらい、また名前のリストバンドで確認し、撮影室入室時も必ず患者本人に名乗っていただいています。名乗れない患者に対してはリストバンドで確認をしています。

基本にもどり、患者確認のルールとして当院では

- ①指差し、声だしで確認
- ②名前を名乗ってもらって確認
- ③リストバンド・診察券で確認を全館で取り組んでいます。



医療事業部 医療安全課

次は 嘉麻赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年7月27日 Vol.29

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

嘉麻赤十字病院 放射線科 金子 和久

TEL 0948-52-0861 E-mail housya@kama-irc.jp

あいさつ

嘉麻赤十字病院は福岡県の中央部に位置し、昭和13年に日本赤十字社福岡県支部山田診療所として発足。昭和23年に筑前山田赤十字病院へ名称変更。平成18年合併による嘉麻市誕生により現在の嘉麻赤十字病院の名称となりました。

嘉麻市のある筑豊地区はかつて炭鉱で栄えた土地であり、現在は過疎化による高齢化の進んだまちとなっています。当院は『人道・博愛・奉仕の赤十字精神にのっとり、地域に密着した温もりのある質の高い医療の実践に努めます。』を理念に掲げ、日々これに取り組んでいます。



嘉麻赤十字病院

ウチの取り組み！再発防止に向けて！

当院は高齢の方が多く利用されますが、建物が比較的古く段差のある所も多く、時折つまづきそうになる方を見受けます。気付いたときに声はかけますが、段差に気付いてもらうための注意書きをする等の工夫を行なっています。

また、放射線科では頭上に機械があるので、機器の角や尖った部分を薄いスポンジで覆い、とっさに動かれた際に頭をけがをしったりしないように工夫しています。

高齢の患者さんで、腰が曲がってあまり前を見ずに歩いたり、視力の弱い方も多く当院を利用されています。段差の手前で『段差に気をつけて下さい』と声をかけてもつまづきそうになる方もいます。

医療施設としての特別な取り組みではありませんが、転倒事故等が未然に防げるように努めています。

嘉麻市は炭鉱の衰退から過疎化が進み交通の便のよくない場所ですが病院近くの川では夏にホタルが舞い、近くでカワセミの姿も見られます。またワラビ等の山菜が自生しています。

当院はそんな自然豊かな、とても環境のよいところにあります。



管球を囲ったスポンジ



出入口の注意書き

人道博愛・奉仕の赤十字精神にのっとり



地域に密着した温もりのある
質の高い医療の実践に努めます

炭鉱跡



ボタ山の風景



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 唐津赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

唐津赤十字病院 放射線技術課 牧原 靖司

Tel.0955-72-5111 E-mail <housyasennbu@karatsu.jrc.or.jp>

当院は、佐賀県北部の中核医療機関であり、地域医療支援病院、地域救命救急センター、地域がん診療連携拠点病院、臨床研修病院、地域災害医療センター、二次被ばく医療などを担っています。

唐津市は、玄界灘に面した唐津湾に沿って日本三大松原の一つ、虹の松原が東西5キロに延び、唐津城が出迎える城下町です。唐津焼、呼子のイカ、豊臣秀吉築城の名護屋城跡などが有名ですが、11月2、3、4日に行われる唐津くんちでは絢爛豪華な曳山が街中を練り歩き、熱気に包まれます。ぜひ一度お越し下さい。



ウチの取り組み！

当院では撮影室ごとに、タイムアウトを行っています。各分野でマニュアルを作成して、技師の配置換えがあった時でも対応できるようにしています。特に血管造影(頭部、腹部等)の検査(治療)時には、検査医、看護師、技師の3名にて患者さんに問いかけながら施行しています。名前、ID(リストバンド)、カルテ、部門端末、装置モニター等を確認し、検査部位、検査目的が何なのかスタッフが共通認識をもち、患者さんに不快感や不安を与えないように取り組んでいます。



再発防止に向けて！

撮影(治療)室にて、患者さんが転倒する事例がありました。患者の安全確保は、最も大切であり、ハード面以外に技師がどのような行動をすれば、転倒防止ができるかKYTを行いました(タイムアウト時に、患者さんの理解力がどの程度か、介助が必要か、技師1人で対応できるか、など判断して、自分がどこの位置にいればいいのかなど...)。患者さんが入室され撮影から退室までの移動の際の、転倒・転落について危険予測を行い、注意点を共通認識し、安全に配慮した業務ができるように心がけています。



撮影台に移動するときは、患者様の前に立ち、患者を両手で支えて移動しよう！ヨシ！

当院史上初の女性技師が、昨年度、2名入社しました。マンモグラフィー、マンモトーム等の業務を主に行っています。今まで当たり前のようにこなしていた業務も、女性では大変と思う事もあったり、女性技師がいるとスムーズにいくな～と感じる場面もあつたりします。ベテラン技師をはじめ、スタッフ間のコミュニケーションをより深めて、日々取り組んでいきたいと思えます。



平成24年8月10日 Vol.31

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

川西赤十字病院 放射線科 三井 宏映

TEL 0267-53-3011 E-mail kawanishi-med-jrc@shore.ocn.ne.jp

ご挨拶…

川西赤十字病院は、長野県の東部(東信地方)に位置する「佐久市」に所在します。秘密のケンミンショーで「鯉(佐久鯉)を食べる習慣がある」と放送されました。(意外と美味なので、佐久市にお立ち寄りの際は是非ご賞味ください。)

さて、当院は一般病棟45床、療養病棟36床、計81床と小規模な病院で、近隣介護施設と連携し地元の高齢者を中心に置いた地域病院です。



ウチの取り組み！

現在、診療放射線技師2名(常勤)で一般撮影1台・ポータブル1台・X線TV1台・CT撮影装置1台で診療を行っております。

当院は患者さまの9割が高齢者で、耳が不自由な方、身体が不自由な方が多く、日常業務で注意している事は、患者さまの振り違い、転倒・転落そして移動時のパルーンやルートの巻き込みです。

撮影前は必ず、患者さま本人または家族、担当看護師、施設スタッフに氏名の確認を十分に行い、また撮影時は1機種につき1人で業務を行う事が多いため、全ての検査において、移動時、検査中も技師をはじめ複数の人間が寄り添い、必ず誰かが見守る状況を作っています。

再発防止に向けて！

当院の事故対策はマンパワーが必要でありあまり効率的とは言えません。しかし、お互いの事故防止のためには、「効率」より「効果」に重点を置き、今後も職種間のコミュニケーションを大切にして、小規模病院ならではの小回りが効く連携を大切にしていきたいです。



思い込み、聞き違い、見間違いといった些細な事から、大きなアクシデントが始まると思うので、忙しい時、慌てている時こそ心に余裕を持ち、「不注意」というヒューマンエラーの防止から努めてまいります。



 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 高知赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年8月17日 Vol.32

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

高知赤十字病院 Tel. 088-822-1201

こんにちは、高知赤十字病院です。

高知県は日本最後の清流と言われる四万十川や室戸岬(ジオパーク)、桂浜、龍河洞など自然の観光スポットが有名です。

他にはよさこい祭り、お酒など楽しいこともいっぱいありますよ。



うちの取り組み！

当院の放射線治療部門は2～3名の放射線技師が担当しています。初回の治療を担当した技師が、ポジショニングの写真をデジカメで撮影、また照射に関して注意すること(固定具の種類、ウエッジの角度など)、患者さんの特徴(独歩or車いすorベッドなど)をAccesssに入力をして情報の共有化を図っています。これにより、急な当番が回ってきても落ち着いて対応ができます。

ちなみに、このAccesssは技師長が作ってくれました。私が担当となった時期に『あれは出来ないんですか？こんなのを増やしてください』などうるさい注文を聞いてくださり、その注文通り作っていただき、ありがとうございました。

ウエッジ使っていますよ！

シェルですよ！

コリメータが回ってますよ！

治療No.	30
Patient ID	5080228
Male	<input type="checkbox"/>
性別	<input type="checkbox"/>
Sex	Male
年齢	75歳
入力日	2012/02/22
Position	仰臥位
治療部位	肺癌
Primary	肺癌
科	放射線科
管理科1	放射線科
管理科2	
Medic	Medic 30
Medic1	Sex B-使用
Medic2	sex B (340)
科長・入局	37
Linux G	



原発の事故以来、放射線への目が一段と厳しくなりました。しかし、放射線を扱う *professional* として、医療事故を起こさないようこれからも努力していきます。



医療事業部 医療安全課

次は 岐阜赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年8月24日 Vol.33

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

岐阜赤十字病院 放射線科部一同

TEL 058-231-2266 E-mail gifu-med.xp@gifu.email.ne.jp



はじめまして、

鶺鴒いで有名な長良川ほとりに位置する岐阜赤十字病院です。当院は、大正12年岐阜支部に救護所として開設され、今日では岐阜市医療圏における基幹病院として質の高い医療サービスを提供しています。

10月より岐阜市近郊で清流国体が開催され、技師諸氏の中には競技にエントリーされている方がいるかも知れません。



うちの取り組み！

当院では、健診受診者の上部消化管検査を技師が担当しています。看護師がブスコパンを筋注した後、健診受診者には検査待合廊下で7、8分待機していただいておりますが、以前、待機中に気分が悪くなった時に気が付くのが遅れたことがありました。幸い大事にはいならず済みましたが、ワイヤレスコール受信機を使用することにより、今は速やかに対応できるようになりました。

安全性の確認

受信機は操作卓の近くにおいてあり、子機のボタンを押すと「ピーポン」と音が出ます。すばやく異常に気づき、看護師が対応できるように心がけています。

また、安全性の向上のために、患者様の状態が常時確認可能な環境整備（例えばカメラの設置など）に努めています。



新人の看護師が、6月より1日2、3名ずつ放射線科部に研修に来ます。「放射線検査の安全管理」の講義を毎回30分ぐらい行っています。看護師にはなかなかわかりやすく好評だそうです。



 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 神戸赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

神戸赤十字病院 放射線科部 斎藤優子(岡山出身)・山崎幸恵(愛知出身)

Tel 078-231-6006 E-mail rt@kobe.jrc.or.jp



あいさつ・・・

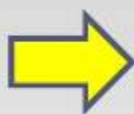
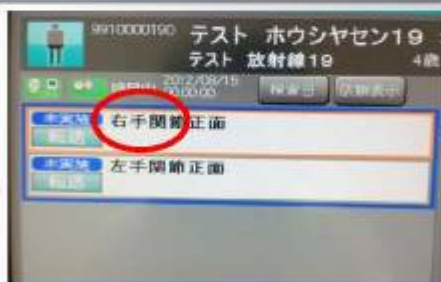
神戸赤十字病院は海に面した場所に位置し、山も海も病室からの景色がきれいです。隣には兵庫県災害医療センターがあり、院内は二枚屏で接しています。

当直は2つの病院を2人で担当しているようなものです。忙しいと逃げ出したい・・・ときもありますが、そんな時、神戸のおいしいご飯を食べ、美しい夜景を見て、心を癒しています。

じゃけんいちど、おいでんせえ(岡山弁)。どえりゃあたのしいがん(名古屋弁)

うちの取り組み！

当院のCRコンソールは他の施設とちょっと違い、撮影部位の画面表示に工夫があります。“みぎ”と“左”で区別しているのです。例えば、RIS上では‘右手関節正面’がコンソール上で展開すると“みぎ手関節正面”というように、**ひらがな**に変換されます。ナイスなアイデアだと思いませんか(〇)



うちの取り組み + α

接遇を大切にしています。患者さんが不安にならないように挨拶をはっきりとし、何の検査をするかを伝え、患者本人にどこの部位を撮影するのかをたずねることでコミュニケーションをはかります。万が一、オーダーミスがあったとしても患者から直接情報を得ることで、未然に防ぐことができます。さらには相手に安心感を与え、撮影がスムーズに進むという利点もあります。しかし話が弾み、検査室をなかなか出て行ってくれない人もちらほら(笑)



医療事業部 医療安全課

次は 釧路赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年9月7日 Vol.35

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

釧路赤十字病院 放射線科部 熊谷 敬広

TEL 0154-22-7171 E-mail xray@kushiro.jrc.or.jp



あいさつ ...

釧路赤十字病院は、北海道東部の太平洋側の釧路市の北西部にあります。病棟からの眺望は、背後の釧路湿原・遠くに阿寒連山を望み、南側の病室からは、釧路港と太平洋を遠く水平線まで望むことができます。

釧路では、世界三大夕日の一つと言われているとてもきれいな夕日が見られます。市民の有志の方がインターネットで毎日ライブ配信されていますので検索して訪れてみてはいかがでしょうか？



<幣舞橋と夕日・釧路市街より>

ウチの取り組み！

「患者さん急変時の緊急呼出しボタンを設置」

平成15年に外来棟が増改築されましたが部門の撮影室は旧棟のままの為、各撮影室に無線の緊急呼出しボタンを設置し、操作室中央で呼出し場所を表示して技師が駆け付けられる様に備えています。検査後使用する事の多い撮影室エリア内の患者トイレにもボタンを設置しています。

「待合い廊下の監視モニタを設置」

平成22年にPACS・RISを導入したのに合わせて、操作室中央に、撮影患者待ち状況表示と撮影室廊下の監視モニタを設置しました。これにより待合廊下の状況が監視できるようになり急変や緊急時の確認が早く対応可能になりました。



<状況表示モニタ>



<呼出し場所表示>



<操作室の様子>

再発防止に向けて！

●患者さんの本人確認は、本人に名乗ってもらうことを基本としていますが、RISと連携して検査票やネームバンドのバーコードを利用し色ランプ表示により、視覚的に状況の確認が出来るようになりました。



<TV操作卓のボタン>



<検査時のボタン>



<RISと連携してランプ表示
検査待ち追加で黄色表示>



<対象が正しいと青表示>



<対象が違くと赤表示>



<乳腺撮影装置のボタン>



<トイレのボタン>

放射線部門でも、先ごろ院内のKYT研修が行われ、他職種のスタッフの方々と共に考え業務改善の見直しの参考になりました。



医療事業部 医療安全課

次は 熊本赤十字病院 からお知恵拝借！！

担当者から一言

平成24年9月14日 Vol.36

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

熊本赤十字病院 所属 放射線科部 氏名 中村 沙織

TEL 096-384-2111(代) E-mail radio.tec@kumamoto-med.jrc.or.jp

みなさん、この愛らしい黒クマのキャラクターをご存知ですか？
熊本県PRマスコットキャラクター『くまモン』です。
本年度、熊本市が政令指定都市移行となった記念に地区本部が制作した
赤十字ver.です。気になる方は、ぜひ熊本県支部HPをチェックされてください。



ウチの取り組み！

当院は5月より『総合救命救急センター・こども医療センター』
がオープンとなり、地元の救急医療の拠点の一つとして日々の
業務に励んでいます。検査中における患者様の急変に対応で
きるよう、画像診断センターでは、医療スタッフ（医師、
看護師、コ・メディカル）が協力して模擬訓練を毎年おこ
なっています。訓練とはいえ、本番さながらの空気なのか、
スタッフは必死に声掛けや心臓マッサージを行います。実
際に、当院では患者様の急変に遭遇し、心臓マッサージを行っ
た放射線技師が複数名います。この訓練がいかに身近で実用
的なものかお分かりいただけるかと思います。

また、CT検査室、MR室、血管造影室、TV室には救命救急
センターへ直に繋がる『救急コール』を設けています。これ
を押すと、救急医がすぐに駆けつけます。アナフィラキ
シーショックなど、迅速な対応が求められる場が考えられ
る画像診断センターの心強い味方です。



再発防止に向けて！

『患者様間違い防止』のため、通常業務では患者様ご本人か
ら名前をおっしゃって頂いた後に検査を行うように心がけて
おります。しかし救急業務では、患者様の容態により確認が
できない場合があります。先日、患者様間違いが発生してし
まいました。そこで、当院では入院患者様に限らず、救急患
者様にもリストバンドを着用後に画像検査をおこなうよう取
り決めを行いました。

本年度、熊本県にドクターヘリ制度が導入され、
当院は基地病院となりました。

各施設さまの取り組みを楽しく拝見させて頂きました。
私たちがインシデント・アクシデントに真摯に向き合い
よりよい医療を提供できるよう取り組んでいきます！



医療事業部 医療安全課

次は 熊本健康管理センターからお知恵拝借！！

平成24年9月21日 Vol.37

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



日本赤十字社熊本健康管理センター 放射線課 課長 長野 勝廣 係長 宮田 貞司

Tel 096-384-3100 E-mail hoshasen@kenkan.gr.jp

当センターは今年度、政令指定都市となった熊本市にあり、熊本県支部・血液センター・熊本赤十字病院がひとつの地区に集まっている日赤熊本メディカルキャンパスの中にあります。

昭和53年4月に全国の赤十字施設で唯一の健康管理事業専門施設として開設され、基本理念である「Health for All, All for Health. —すべてのひとに健康を、健康に全力を—」をモットーに予防医療に尽力しています。



うちの取り組み！

胃部X線検査は、体位を変えてもらうことや透視台が傾くことを事前に被験者に知ってもらうことで、安心して安全な検査ができます。このため、**検査の流れや方法をわかりやすく説明するDVD**を作成しました。事前にDVDを見ていただくことでスムーズに検査ができるようになり、「検査がきつい」という苦情も減らすことができました。

また、身体が不自由な方の場合、**技師も透視室の中に入り**、被験者の様子を見ながら撮影しています。被験者からも「安心して検査を受けられた」と言われるようになりました。

組織的に取り組んでいるTQM活動や医療安全活動でも「苦痛緩和と安全確保」に取り組んでおり、これからも改善を続けていきたいと考えています。

検査説明DVD

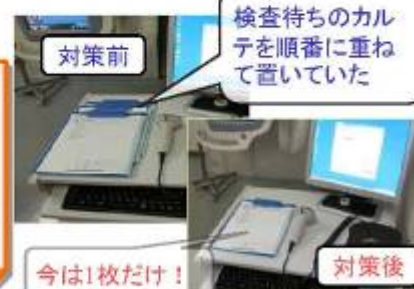


被験者を確認しながら撮影

再発防止に向けて！

多くの検査をしていると被験者の名前を間違えて登録してしまいそうになるヒヤリ・ハット事例が起きます。そこでRCA分析を行い、効率上、検査待ちの複数のカルテを重ねておいたものを「登録台の前には検査する人のカルテしか置かない」ということをルール化しました。

再発を防ぐヒントはその原因を探し、無くすことから始まります。



多くの人を検査する健診ではKYTなどの活動が有効です。これからも無事故で健診ができるよう日々努めていきます。



検診車の出入り時には転倒の危険があります。そんなところでは必ず案内係(青色の服の人)がお手伝いし安全を確保します。



医療事業部 医療安全課

次は 栗山赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

諏訪赤十字病院 放射線治療科部 放射線治療課長 赤津 英尚

TEL 0266-52-6111 E-mail gazou@suwajrc.or.jp

あいさつ・・・

諏訪赤十字病院は、平成11年に諏訪盆地の中心に位置する諏訪湖の畔に移転・新築をし、施設面の充実を図ってきました。

現在、臨床研修指定病院・地域医療支援病院・がん診療連携拠点病院・エイズ治療拠点病院・地域周産期母子医療センター・災害拠点病院の指定を受けた診療科目24科455床の病院です。

放射線診断科部、放射線治療科部合わせて25人の診療放射線技師で業務を行っています。(うちパート4名)



ウチの取り組み！

患者の誤選択がおきないように、治療受付はバーコードリーダーで行い、治療実施画面及び治療RISに登録した顔写真で再確認をしています。

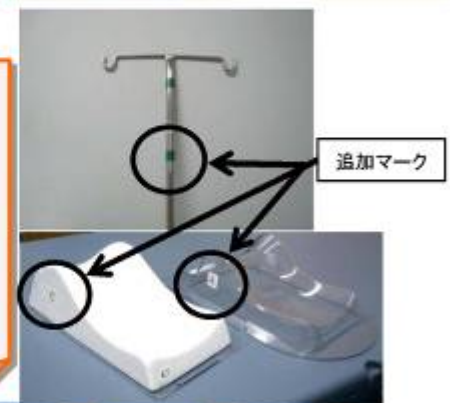
インシデントが発生した場合、院内のイントラネットを利用したレポート報告システムでの報告がありますが、治療科部内ではそれ以外に、もっと手軽に入力ができ業務改善につながるよう、自作データベースによるインシデントレポートをつけています。このインシデントレポートには英国放射線医師学会作業部会によるエラー分類や重要度分類を採用し、ほんの些細な事例でもレポートをつけています。その中からヒューマンエラーが原因で起こった事例を検索し、改善策をみんなで検討しています。



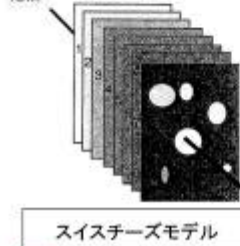
再発防止に向けて！

診断科部では、金属探知機やMRI検査チェックシートがあるにもかかわらず、MRI室に普通の点滴台を持ちこんでしまった事例がありました。そこで、非磁性体の点滴台やワゴン、血圧計などに緑色のテープを巻き、ひと目で確認できるようにしました。

治療科部では、枕の取り間違いがありました。購入時からついている表示マークは頭頂側だけなので、横からでも確認できるように枕の両横にもマークを追加しました。また、固定具の取り間違いがあったので、固定具の両横に患者の氏名を書き、両サイドからそれぞれの技師が確認できるようにしました。



危険 予防の多重障壁



スイスチーズモデル

事故の発生

ー リスク ー

1. スタッフの連携不足
2. 確認システムの不足
3. 機器の使いにくさ
4. 教育・指導不足
5. 設備機器の欠陥
6. 仕事量の多さ
7. 人間のエラー
8. 規則違反

スイスチーズモデルからも分かるように、事故はいくつもの予防壁を通過してしまったときに発生します。ダブルチェックを基本とした複数の目での確認が大切です。それでもちょっとした油断で見逃してしまい、ハッ！とする場合があります。「ヒューマンエラーをなくそう！」それが放射線治療科部のモットーです。



医療事業部 医療安全課



次は 鹿児島赤十字病院 からお知恵拝借！！



*砂むし温泉

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



*黒ぶた

鹿児島赤十字病院 放射線科部 的場 優佳

TEL 099-261-2111 E-mail housyasen1@kagoshima-med.jrc.or.jp

鹿児島赤十字病院は、鹿児島市の南部の海岸沿いにある、120床の病院です。放射線科部は、診療放射線技師5名、事務職員1名のスタッフで日夜業務に取り組んでおります。また、週2日、鹿児島大学放射線科医師による読影も行っております。現在、病院改築計画が進行中です。平成26年春に完成予定です。



*完成予定図

うちの取り組み！

当院の放射線科部では、HIS-RISの連携を行っていますが、オーダー情報をプリントアウトすることで各自ダブルチェックを行うようにしています。紙で確認し、更にRISで確認することによって、撮影機器への患者情報を入力する際の入カミスを随分減らすことが出来ました。

また、ポータブル撮影時にプリントアウトした紙を持って行くことで、患者間違いや部位間違いといった人為的ミスの防止に努めています。



*A5サイズ用紙



再発防止に向けて！

先入観を無くし、よりの確認を怠らず事故の無い様、スタッフに注意喚起しています。また、起こった間違いは、確実にチェックし、フィードバックする体制作りを進めています。

当院放射線科部では、リスクマネジメントというよりセーフティマネジメントという考え方に立ち、業務を行っています。「転ばぬさきの杖」のつもりであり、「転ばぬための知恵」を出すよう努めています。



医療事業部 医療安全課

次は 鳥取赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

鳥取赤十字病院 放射線技術課 磯見 正美

TEL 0857-24-8111 E-mail radiolog@tottori-med.jrc.or.jp

放射線技術課には現在、診療放射線技師13名(男性9名 女性4名)、看護師6名、受付事務2名が所属し、一般撮影をはじめ、X線透視検査・CT・MRI・RI・血管造影・放射線治療などに従事しています。マンモグラフィ撮影は全て女性技師が行っており、女性の方に抵抗なく検査を受けていただいています。平成20年にはマンモグラフィ検診施設画像認定を受けています。

「鳥取ってどこにあるの?」「鳥根の右だよー」
鳥取県の場所は知らなくても、誰でも知ってる鳥取砂丘。その砂丘の砂を使った「砂像」をご存知ですか?完成度は正に芸術品。今春には「砂の美術館」もオープンしました。鳥取にお越しの際は「砂の美術館」で検索してみてください。



うちの取り組み!

数年前より、病院を挙げて医療安全に取り組んでいます。最初はぎこちなかったものの、今では積極的に安全活動を行っています。放射線技術課内でも、各種マニュアル作り、インシデントレポートの活用、研修会や講習会の開催を行っています。最近もCT検査中の患者急変時を想定して、患者役、技師役、看護師役を決め、救急カートを持って来たりコードブルーをかけたりと、実際さながらの訓練を行いました。その後、実際の急変場面で落ち着いて対応できました・・・と言いたいところですが、本当は慌ててしまい、未熟さを痛感しました。定期的に繰り返し訓練を実行していきます。

再発防止に向けて!

患者誤認防止の為に、本人に名乗ってもらい、IDカード・ネームバンドの確認等を、受付時と撮影前に行っています。あるとき同性同名同年代の女性が続けて撮影に来られ、しかも一人はトイレへ行って不在で、撮影間違いが生じてしまいました。その後は、同性同名が来られた時は、受付がチェックし「同性同名あり」とコメントをいれ、さらに撮影技師にも直接知らせるようにしました。撮影時には生年月日等で確認を取っています。

日赤花子です 日赤葉菜子です



ニッセキハナコさん?



医療安全週間にちなんで、院内で医療安全標語を募集し、優秀作を年間安全標語としています。昨年は残念ながら次点となりましたが、今年は放射線技術課で応募した標語が優秀作に選ばれました。

これを機会にもっとがんばろー!

「確認はあなたと私の合言葉」

平成24年10月19日 Vol.41

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

成田赤十字病院 放射線科 氏名 山本 洋史

Tel 0476-22-2311

こんにちは、成田赤十字病院です。

当院は、第1次から第3次救急、ドクターヘリも受け入れており、成田市のみならず、近隣市町村の中核病院として貢献しています。

世界の窓口「成田国際空港」から約15分と非常に近い距離に立地しており、救急には国際色豊かな患者様が来院します。そんな患者様が来院するたびに英語ぐらいは話せるようにならなければなあと日々感じる病院です。



うちの取り組み！

- ・患者様の確認に患者様にも協力（名乗ってもらう）してもらっている。
- ・ポータブル時、オーダー票に使用IPの番号を記載し、読み取り時に間違いがないようにしている。
- ・左右間違いが起こらないように、患者様に部位の確認をしている。
- ・TV検査では点滴台、室内用モニター等の機器への衝突を防ぐために物置禁止区域を表示。
- ・患者様に合わせてeGFRを計算し、造影剤の濃度・量の最適化。
- ・MR1では持ち込み可能な点滴台、ストレッチャーに黄色いテープを広範囲に巻きつけ、一目で分かるように表示している。 etc…

再発防止に向けて！

2012年3月より電子カルテ稼働に伴いインシデントシステムもコンピュータ管理になり、医療安全管理室と直結し放射線科のみではなく、病院全体で迅速な情報共有を行っています。



MRMにQC手法を利用すると対策が非常に立てやすいですよ～。
御参考までに…。

成田空港を飛び立つ飛行機に成田名物のうなぎをコラボレーションしたデザイン。名前も「うなぎ+なりた」で「うなり」です。皆さんよろしくお願ひします。



成田市特別観光大使

 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 小清水赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

小清水赤十字病院 放射線技術課 課長 岩田 雄一 河村 康広

Tel 0152-62-2121 E-mail krchp@phoenix-c.or.jp

あいさつ・・・

小清水町は北海道の東北に位置し、流氷で知られるオホーツク海に面した人口約5300人の小さな町です。世界遺産知床・網走国定公園・阿寒国立公園に囲まれた自然豊かな環境で、一般病床が49床、療養病床が50床、放射線技師は2名の小さな職場ではありますが、地域医療を担う病院として日々放射線業務に取り組んでいます。

ちょうど今時期は鮭釣りのシーズンで、全国いたるところから鮭釣りに魅了された釣り人が、オホーツクのこの地を訪れております。

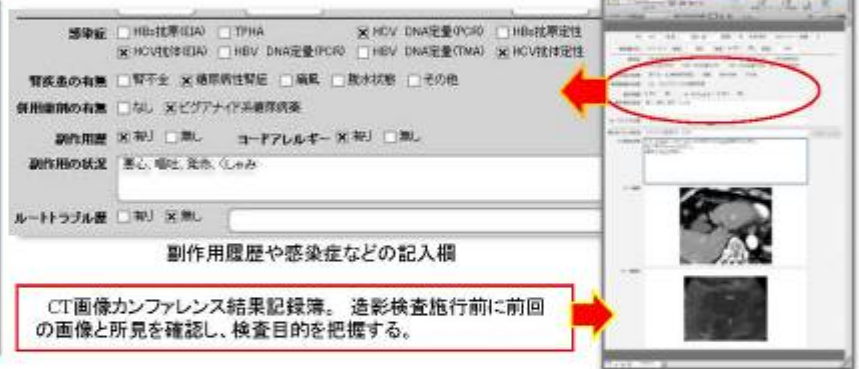


鮭釣りを楽しむ人々と、釣りたての鮭を使った名物のちゃんちゃん焼きといくら丼、絶品です！

ウチの取り組み！

電子カルテが導入されていない当院では、造影CT検査における副作用防止対策の一つとして、副作用歴などのデータベースをFilemaker pro12を使用して作成し運用しております。

CTの画像所見記録とリンクしており、検査施行前に必ず前回検査情報とともに患者様の副作用歴などをcheckし、医師・看護師による問診と併せて多段階での確認作業に役立てております。



CT画像カンファレンス結果記録簿。造影検査施行前に前回の画像と所見を確認し、検査目的を把握する。

再発防止に向けて！

CTの寝台付属のマットが非常に滑りにくい素材となっており、患者をポジショニングする際に服がめくれて、擦過傷を負わせてしまう事故がありました。

そのような事故を防止するために、「やわらかパッド」を敷きました。表面が滑りやすい素材で出来ているので、患者のポジショニングが非常にスムーズに行え、服がめくれる心配も無くなりました。

寝台の両側5～6cmは、転落防止のために寝台付属のマットが出るようにしています。また、「やわらかパッド」は名前の通りやわらかい素材なので、背中が曲がったお年寄りからは、「前より背中が痛くない」等、好評を頂いております。



CT寝台に「やわらかパッド」を敷いた状態、両端のグレーの部分はCT付属のマット

安全な医療行為を行うには、他部署のスタッフも含めたお互いの理解が必要と考えております。病院の規模も小さくスタッフも少ない分、密なコミュニケーションがとれるという利点があります。その利点を十分に生かすような業務を日々行っていきたいと心掛けております。



放射線課スタッフから一言



医療事業部 医療安全課

次は さいたま赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年11月2日 Vol.43

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

さいたま赤十字病院 放射線科部 尾形 智幸

TEL 048-852-1111 E-mail t-ogata@saitama-medjrc.or.jp

さいたま赤十字病院です。さいたま市は人口 124万人を超える政令指定都市で、サッカーのJ1チームが 2チームあります。当院は平成28年のさいたま新都心への新築移転に向けて準備中です。この場所はスカイツリー誘致の候補地でした。現病院も新病院も交通の便はとも良いと思いますので、是非遊びに来てください。



うちの取り組み！

核医学検査室で行っている、放射性医薬品の誤投与防止の取り組みを紹介します。受付時には検査名が書かれたカードを患者さんに手渡し入室してもらいます。シリンジには患者名、検査名、薬品名が記載された患者識別用シールをあらかじめ添付しています。投与時は技師は患者さんから札を受け取り、名前を名乗ってもらい、シリンジのシールに記された内容と間違いがないか、技師と医師で確認したのち投与します。これは、平成23年6月10日付で関係学会により策定された「放射性医薬品取り扱いガイドライン」に沿った運用です。患者識別用シールは手書きではなく、RISから検査予定をCSVデータで取り出しラベルに差し込み印刷し、書き間違い防止も図っています。

再発防止に向けて！

放射線科では事故や過誤の再発防止に努めるため、レポートとして挙げた事例に対し、事象の把握、分析、対策の立案を科内のワーキングGr.でまとめ、ミーティング開催時に報告し情報の共有を行っています。また、事例を絞り原因分析を掘り下げ、再発防止を図る試みも今後導入していく予定です。最近では、CT造影検査時のインジェクターとCT装置の同期が切れてしまった事例について、考えられる原因を挙げ、実際に現象が出現するかどうか検証を行いました。また、再発防止のためにチェックポイントを提示し科内で認識を共有しました。

受付でカードを渡します

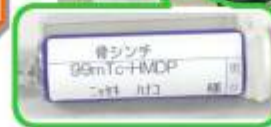


投与前に最終確認

お名前を名乗ってください



ニッセキハナコです



当院は平成28年の病院移転に向けて、動き出したところです。安心して働ける環境で、安全な医療を提供できるように、システムや運用を考えていきたいと思っています。現在、256列CTの11月稼働に向けて準備中です！



 日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 静岡赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年11月9日 Vol.44

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

静岡赤十字病院 放射線科部 樋口 雅美

TEL 054-254-4311

静岡赤十字病院は静岡市の中心地にあり近くには伊勢丹、松坂屋などのデパートがあり仕事帰りのお買物が楽しい場所にあります。また、当院の半径5km以内には、県立病院、市立病院、済生会病院、厚生病院、徳州会病院があり、病院激戦区?!となっています。

8階病棟より富士山がみえます！



ウチの取り組みⅠ

基本的な事ですが、患者間違いを無くす為に撮影前に本人に氏名を名乗ってもらっています。ご自分で名乗れない方にはお付添の方に尋ねるか、入院中の方はリストバンドをしているので、そちらで確認をしています。患者さんは何処に行っても「フルネームでお名前を教えてください」と言われ何度も大変だとは思いますが、快く協力して頂ける方がほとんどです。患者さん自身に名乗ってもらう前は、撮影室が混み合っているとまれに患者間違いがありました。最近は全く無くなりました。

ウチの取り組みⅡ

当院の乳がん検診はマンモグラフィと視触診を行います。マンモグラフィを撮影した女性技師が視触診の補助をするので、マンモグラフィを撮影しながら気になる所などを聞き出して医師に伝えます。医師と面接すると緊張してしまい聞きたい事など聞けない方もいる為、私たちから医師に伝える事もあります。その為、検診者が些細な事でも言いやすいような雰囲気を作ることを目指してマンモグラフィを撮影しています。



当院は、長年お世話になった本館、西館の建替えと新別館の増築を行い平成26年10月のグランドオープンを目指して只今工事中です。患者さんにはご不便をお掛けしていますが、職員の親切な対応で患者さんに満足して帰ってほしいと思います。



新棟完成イメージ図



医療事業部 医療安全課

次は 清水赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年11月16日 Vol.45

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

清水赤十字病院 所属 放射線技術課 氏名 首藤 竹司

TEL 0156-62-2513 E-mail rcs_housyasen@amail.plala.or.jp

当院は北海道の尾根日高山脈の東にあり、高齢者が多い過疎地において92床の地域医療を支える病院です。
ここ北海道十勝は、広がる地平線に放牧された牛たち、そしてどこまでも直線に伸びる道路。そんな風景が広がる中、肥沃な大地は美味しい農作物を育み、十勝ブランドを確立しています。トムラウシ遭難事故の際には、当院にも多くの犠牲者が搬送されました。



ウチの取り組み！

地域柄高齢者が多く、撮影時の転倒には常に気をつけなくてはなりません。一人にかかる撮影時間は多くなりますが、常に服の脱衣、着衣も手伝いながら、撮影時の補助も行っております。今まで放射線科内での転倒事故はありませんが、数年前には一般撮影室のレイアウト変更を行い、立位撮影台を操作室側に移しました。こうすることで、支えながら撮影が出来る上に、転倒しかかった場合など直ぐに手を差し伸べることが出来ます。より安全に、より確実にと、心がけています。



再発防止に向けて！

また当課には放射線技師しかいないため、患者様の急変などに対応できるよう、急変時ブザーを取り付けました。このボタンを押すと内科に音と光で知らせます。同時に、看護師が駆けつけるようになっています。



3人の放射線技師で検診のエコー、マーゲン、眼底検査、一般撮影、骨密度、透視装置を使った検査、CTでは頭部、胸腹部、下肢の造影検査、Ai、さらに毎日の救急までをこなしています。最近では整形の患者様も増えてきたのでMRIが欲しいところです。



課長 中川 から一言



医療事業部 医療安全課

次は 下伊那赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

下伊那赤十字病院 放射線科 伊藤 保

TEL 0265-36-2255 E-mail rc45xray@mx1.avis.ne.jp

昭和50年5月、現住所に移転して37年経過しました。
西に中央アルプス駒ヶ岳、東に南アルプス塩見岳、果物の里として
中京方面の方には人気があります。干し柿「市田柿」の生産拠点であり
家庭の敷地内には渋柿の木が多くあります。
マツタケ・梨・りんご・ぶどう・桃・ラフランスなど魅力たっぷりですが、
意外に最近ではサクランボ狩りツアーを見かけます。
りんご最盛期にはインター出口は数キロ渋滞になります。(11月23日～)
詳しくは行政ホームページを「長野・松川町」で検索して下さい。
予定通りリニア新幹線が来ると、長野県で駅に一番近い赤十字
病院と成りそうです。



ウチの取り組み！

働き盛りは町外に車で通勤し日中は高齢者率が非常に高い地域です。患者様確認に対し本人に名乗って頂くなどは他施設と同じです。本年リストバンドを入院患者様にして頂く様に成りましたがまだマジックでの手書きです。場合によっては入浴時に擦れて確認出来ない場合もあります。もう一工夫必要ですね。
冬が近づき最近まで忘れていた貼るカイロ問題が発生し更衣場所に新しい注意書きを部下が作ってくれました。(冬の嫌いな私とスキーの上手な部下より)

再発防止に向けて！

自身が院内MRM委員でもあり、委員会の勤めもあって5月に本社で開催された第5回医療安全管理者養成研修に参加、エラーの発生から医療事故紛争までを研修してきました。構造・配置・方法にヒューマンエラーが絡んだ事例の多くは、事前にKYTによって構造・配置・方法の見直しがされていれば防げる確率はUPします。事が起きてから委員会で改善方法を検討する前に、一工夫の発言が出来る体制作りの方がスイスチーズの穴を事前に少なくしておくはずであり通り抜ける数も少なくすむはずで。



長野県には赤十字病院は現在6施設が点在しています。
年に一度研修会を当番制にて開催しています。
さらに本年は本会より会長出席で中部ブロック会議が安曇野で開催されブロックの運営体制が整った所です。
業務連絡会議が会員発表研修会へ発展していく第一歩と成りました。



飼犬 46Kg

平成24年11月30日 Vol.47

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

仙台赤十字病院 医療技術部 第二放射線技術係長 小林 新一

TEL 022-243-1111 E-mail rad1@sendai.jrc.or.jp

仙台赤十字病院概要

仙台市の南西部、八木山丘陵の南西中腹に位置し、北には青葉城址、見下ろせば仙台平野と太平洋を望める広大な敷地に、ゆったりと静かにたたずむ仙台赤十字病院。総合周産期母子医療センターが設置されており、100万人都市仙台の医療を支える機関として、多くの方々にご利用いただいています。



ウチの取り組み！

過去に、CT・MRI撮影時の患者取り違いインシデントが何回か発生していました。対策として、撮影時の患者確認を生年月日で行うようにしました。このおかげで、現在ではCT・MRI撮影時の患者取り違いが無くなっています。



青葉城址の伊達政宗像



青葉城址の石垣は、一部震災時に崩れたままになっています。

再発防止に向けて！

事例：MRI検査時に点滴スタンドをMRI装置に吸着させた。

再発防止策：

MRI用の点滴スタンド以外を撮影室に持ち込まないようにMRI用の点滴スタンドにひと目で分かる様に色の付いたテープを巻きMRIと書かれたプラカードを吊るし、今まであいまいになっていたスタンドの定位置をMRI撮影室前に設置した。



医療事業部 医療安全課

次は 裾野赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年12月7日 Vol.48

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

裾野赤十字病院 所属 放射線科 氏名 朝倉 正昭
TEL 055-992-0008 E-mail temp08958544@ab.thn.ne.jp

ご挨拶 …

少しずつ寒くなってきましたが皆様方お元気でしょうか？
東北地方の方々には復旧・復興を一日も早くできますように
心よりお祈り致しております。

裾野赤十字病院は静岡県東側に位置して東に箱根連山、
西に愛鷹山々、南に駿河湾、そして北には霊峰富士を見上
げる位置にあり、四季折々の富士山を観光できる
ところにあります。

又、この地域はのんびりムードで、この時期でも
暖かく温暖な気候です。



うちの取り組み！

“次は私が呼ばれる”と思い込んだ患者さんが“ハイ”と言って中に入り、
撮影後そのFilmは人違いであった、とか左右の撮影部位を間違えて撮影して
しまった、等のミス無くすことを目的に私たちは次のことを実践しています。

当院は未だに指示表が紙の手書きでチェックする様式用紙を用いています。
指示の間違いでそのまま撮影してしまうと、後で再撮影することとなりますが、
これは原因が何であれ、患者さん本人が損害を受けてしまうことになります。

その様なことを無くす対策として、私たちは本人に氏名・生年月日を言っ
ていただく（診察券発行の間違いチェック）のはもちろんのこと、撮影担当者は
撮影する前に指示チェック欄を指さし確認をして、だれにでも理解る言葉で、
“撮影部位”・“撮影枚数（回数）”を患者さんとともに確認後撮影に入っ
ています。（右左が理解不可能な方は指さして）

例えば“右シツカンセツ撮ります”ではなく、“ミギ”の“ヒザ”を“2枚”
撮りますとか、“ヒダリ”の“テ”を“4回”と“ミギ”の“カタ”を“2枚”
撮ります、などです。このことによりもちろん再度撮影もないし、また医師の
指示をも正すことになりお互いに利益をもたらしています。（技師には時間が
かかってメンドウなのだが）



もう少しで退職時期ですが最後まで気を
引き締めて事故等ないようにがんばります。



朝倉からつばやき一言



医療事業部 医療安全課

次は 原町赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成24年12月14日 Vol.49

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

原町赤十字病院 放射線科部 課長 萩原 健

Tel 0279-68-2711 E-mail haramachi-rc-h01@xp.wind.jp

当院は群馬県北西部で、民主党政権のダム建設中止で話題になったハツ場ダムの下流に位置し、草津・伊香保四万・万座温泉にも近い、人口1万6千人の町に建つ227床の高齢患者の多い病院です。

建設途中でしたハツ場ダムの橋は現在完成し対岸の移転地区を結ぶ道路として利用されています。



ウチの取り組み！

「患者間違い防止のために、患者さんに自称していただく」

院内のIT化の遅れから、各装置への患者情報は手入力のため、ID番号や氏名の間違い等多く有り、入力時の再確認や、撮影部位の左右の間違い防止には、撮影前に患者さんに確認するなど、確認作業が多い日常です。

今冬にはオーダーリング・PACSが導入予定ですので、多少は確認作業が軽減されることを期待しています。

お名前の確認について

当院では、診療を受けられる方のお名前を正しく確認させていただくために、ご本人またはご家族にお名前を名乗っていただきます。

職員がお尋ねしましたら、**姓名（フルネーム）**をお答えくださるようお願い申し上げます。

原町赤十字病院 放射線科

再発防止に向けて！

MRI検査では、幸いこれまでに大きな吸着事故は発生していませんが、看護師さんのポケットからはさみが飛び出しそうになったり、ヘアピンが引かれたりした事例が過去にありました。そのため入職時に磁場の強さを実感してもらうために、実際にMRI室にてクリップを使用して吸着力を体験してもらっています。そのためかMRI室への入室時は、ポケット内の物は全て出して入室してくれます。



5月25～26日に医療安全管理者研修に参加してきましたが、インシデント・アクシデント件数0件は難しいが、目標0件に向けて全職員が取り組む大切さを感じました、多くの方の参加を期待します。



担当萩原から一言

 **日本赤十字社**
Japanese Red Cross Society

医療事業部 医療安全課

次は 多可赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

多可赤十字病院 放射線技術課 内橋 宣尚

Tel 0795-32-1223 E-mail houshasen@taka.jrc.or.jp

あいさつ…

多可赤十字病院は、兵庫県の中部、緑と清流の町にあります。野鳥の鶯声で目覚め、一日が始まります。当地は酒米で有名な山田錦の発祥の地と言われ全国各地の酒蔵へ出荷しています。

当院は、昭和63年全国で初めての老人保健施設を病院に併設しました。その後医師不足のなか、回復期リハビリテーション、そして在宅医療や在宅介護の充実に、また近隣医療機関や行政との連携を深めながら、地域医療の充実に全職員一丸となって取り組んでいます。



ウチの取り組み！

当院の外来入院患者様の90%以上が高齢者であり、認知症や寝たきりでベッド上又は車椅子での撮影が多くなります。認知症の患者様にはプライドを傷つけないことと、背中に置いた撮影具による苦痛の軽減および安全な撮影を心がけています。

再発防止に向けて！

ベッド上での撮影に使用した補助具を置き忘れないよう工夫しました。

- ①撮影補助具の紛失防止の為、保管場所を決めています。
- ②腰部の下に敷く撮影補助具。撮影後も敷いたままで夕方に褥創が出来ました。補助具が腰部にあることが分かるように鈴もつけました。
- ③撮影時、患者様および撮影者が機材に接触して怪我をしないよう、発砲スチロールで保護しています。



平成24年もあと数日となりました。忙しい日がつづきますが皆様、体には気をつけてご自愛ください。よいお年を迎えられることを願っております。

平成25年1月11日 Vol.51

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

高槻赤十字病院 放射線科部 関本 淑徳

TEL 072-696-0571 E-mail trc-xray@takatsukijrc.or.jp

あいさつ …

高槻赤十字病院は、大阪市と京都市とのちょうど中間に位置し、「水とみどりの生活文化都市」がキャッチフレーズの高槻市にあります。すぐ近くには、5-6世紀のハニワ工場跡で、18基のハニワ窯と工房、工人集落からなる全国最大級の遺跡があります。そして、ゆるキャラの名前は「はにたん」！また、〇〇のケンミンショーでは「うどん餃子」が紹介されましたが実際食べたことはありません…近くにお越しの際には、ぜひご賞味ください。



ウチの取り組み！

当院でも入院患者さんの確認ではネームバンドでの確認をしておりますが、それでも確認をし忘れての撮影間違いが起きました。そういうことも踏まえて、より明確な患者誤認防止マニュアルを再度作成し、全員に今以上の意識付けを行っています。

また、最近では理学療法士の先生にお願いをして患者さんの起き上がり補助の講習をしていただきました。より安全に患者さんの補助を行う目的と、無理な体勢での補助によって腰を痛めない為に企画しました。この講習会のおかげで前よりスムーズにまたそんなに力を入れずに患者さん起こすことができるようになりました。

再発防止に向けて！

思い違いによる患者間違いを未然に防ぐために、「人は誰でも間違える」ということを前提に、業務中、誤認する可能性を常に認識しています。そして、防止のためのチェックシステムを徹底することをマニュアル作成することによって、放射線科内に浸透させていきました。



日頃から何かあれば、すぐにインシデント・アクシデントレポートの提出をお願いしています。その中でも「これはヤバイ！」と思った事例に関しては、RCA分析を行っています。ちょっと時間はかかりますがやることによっていろんな解決方法が出てきます。まあ…0件っていうのが理想ですが…



医療事業部 医療安全課

次は 高松赤十字病院 からお知恵拝借！

平成25年1月18日 Vol.52

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～



さめきうどん

高松赤十字病院 放射線科 峯瀬 正高 坂本 吉伸

TEL 087-831-7101 E-mail hoka-3@takamatsujrc.or.jp

高松赤十字病院は、四国の入り口“うどん県”高松市にある589床の病院です。官公庁やオフィス街に近いこともあり、本場のさめきうどんの名店に歩いていけるといふ恵まれた立地にあります。

現在、放射線部門も移転予定の中央診療棟（仮称）の建築工事が進行中で、地下1階地上5階建の免震構造にて2014年春の完成を目指しています。



中央診療棟（仮称）完成予定図

うちの取り組み！

当院では、本年度より診断用X線防護衣（以下：防護衣）の病院一斉点検をおこなっています。目視・透視点検に加え、今回よりバーコードラベルを使用した台帳管理を導入しています。院内すべての防護衣に認証用のバーコードラベルを貼り付け、X線透視装置にて防護シートの破れ、亀裂、折れジワなど異常の有無を確認していきます。点検結果は損傷度合に応じて三段階に評価し、衛生管理委員会への報告をおこないます。これまではマジックでの記入表記のみでしたので、バーコード管理の導入によって点検チェック漏れの防止と次回からの点検作業の効率化に期待がもてます。

事故防止に向けて！

防護衣は一度購入すると比較的長い期間使用するため、X線防護能力の維持には適正な使用と保管が不可欠となります。保管の際には専用のハンガーやラックをキチンと使用し、折れジワなど破損原因の発生を抑制します。また、定期的に防護衣全体を清拭することで、内部の防護シートの脱落など異常の早期発見にもつながります。



バーコード貼り付け作業

放射線科では毎週水曜日にミーティングをおこない、スタッフ間で専門知識の共有を図っています。放射線の安全利用が注目されるなか、医療の現場においても患者さんや放射線診療従事者への放射線安全管理に一層気を配って日常業務に努めていきます。



日頃から整理整頓



医療事業部 医療安全課

次は 高山赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年1月25日 Vol.54

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

高山赤十字病院 放射線科 中田 幸博

Tel 0577-32-1111 E-mail rad@takayama.jrc.or.jp



当院は岐阜県の北半分、飛騨地域の中核病院として、救命救急センター（1次～3次救急）、地域がん診療連携拠点病院、地域周産期母子医療センター、災害拠点病院等の指定を受け急性期医療を中心に地域医療の確保に努めています。飛騨地域の中の高山市は、東京都と同じくらいの面積を持ち、東は北アルプス、西は白山連峰と山に囲まれ、山での遭難、転落事故が多く、ヘリで運ばれてきます。市内は、『飛騨高山』で有名な観光地で、シーズンを問わず観光客であふれる街です。



うちの取り組み！

今、大阪大学医学部附属病院と共同で、病院全体で『いろはうたプロジェクト』に取り組んでいます。この『いろはうたプロジェクト』は患者さんと医療者のパートナーシップをテーマに、患者さんに進んで医療安全に参加してもらおうとする取り組みです。入院時に、医療安全の七つのポイントを、ツールを使用して患者説明を行うことにより、患者参加を促進し、その効果を評価しています。



再発防止に向けて！

患者間違い、部位間違いのインシデントを減らすために、いろはうたプロジェクトの「い」を取り入れ、「今一度自分の名前を伝えましょう」を活用し、ポスターで患者さんに名前を名乗ってもらうよう啓蒙したり、こちらから尋ねるようにし、本人確認を確実にを行うようにしました。また、部位確認は、指示を確認しながら本人に痛い部位を尋ね、本人の訴えを聞くよう部位間違い防止に努めています。

以前より、件数は大幅に減りましたが、完全に0にはなりません。さらなる追求に向け、検討中です。



医療安全・知恵の輪を読むと、どの施設でも同じような対策を取っていて患者さん間違い防止に努めている。我々放射線技師は、短い時間で患者さんとのコミュニケーションをより多くとり、本人確認、情報収集をし患者さん間違い、部位間違いを0にしていかななくてはならない。手間のかからない、簡単な方法をもっと模索していかななくてはならない。



いい知恵教えて～



医療事業部 医療安全課

次は 伊達赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年2月1日 Vol.54

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

伊達赤十字病院 放射線科部 藤部 英俊

TEL 0142-23-2211 E-mail datehosyasen@yahoo.co.jp

あいさつ …

伊達市は北海道の南西部に位置し、温暖な気候から北の湘南とも呼ばれています。南は噴火湾、北は洞爺湖サミットが開かれた支笏洞爺国立公園に囲まれた、人口約3万7千人の町です。

伊達赤十字病院はこの地域の唯一の急性期総合病院として、住民の健康、保健、衛生、福祉分野に貢献すべく、職員一同日々努力しています。



ウチの取り組み！

MRI、RI、CT業務は一人体制のため、患者さまの容態が急変した場合や、一人では対応できない状況になった時に、このスイッチを押します。一般撮影の操作廊下に設置された、緊急呼出しのブザーが鳴り応援が来ます。表示板にはどこからの緊急呼出しなのか、一目で分かるようになっています。



再発防止に向けて！

医療安全委員会から配布された右のポスターを用い、患者様や職員の目に触れる場所へ掲示し、本人確認を徹底するように心がけています。

お名まえをどうぞ
ありがとうございます。

お名前を何度もお聞きします。それは、お名前の確認は医療安全の基本だからです。フルネームを言っていただく事にご理解とご協力をお願いいたします。



伊達赤十字病院 医療安全推進部

受診される方へ

診察室に入りましたら

放射線技師に**氏名**をお伝えください。



伊達赤十字病院 医療安全推進部



医療事業部 医療安全課

次は 津久井赤十字病院 からお知恵拝借！！

平成25年2月8日 Vol.55

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

津久井赤十字病院 放射線科部 松山 繁

TEL 042-784-2418 E-mail rentogen@tsukui-jrc.tsukui.kanagawa.jp

あいさつ …

東京都・山梨県境にほど近く、神奈川県北部に立地する当院は、昭和28年に赤十字病院として開院し、今年で60年目を迎えます。昭和40年神奈川県支部中野赤十字病院から、津久井赤十字病院に改称し、平成13年の現病院改築後、同18年には政令指定都市に移行されました。

病棟や外来待合室からは、四季を通して津久井湖と山並の景観を楽しむことができます。2階の待合室は一部湖側に向けて設置されております。



ウチの取り組み！

70歳以上の患者様の割合が、外来では4割強、入院は6割強の時もあり、別人の名前でも入室される事が多々あり、本人確認には充分注意する必要があります。診察券での確認、名前と生年月日の確認、手書きでのリストバンドの確認、撮影部位の確認を必ず行います。HIS、PACSが導入されて稼働していますが、RISが導入がされていないため、患者様の登録や部位の設定が一部手入力となっています。そのため、間違いが発生する可能性があるため、声掛け確認の実施等を確実に行っていきます。

再発防止に向けて！

撮影後、患者様が管球に頭をぶつけることが続きました。2管球あり、管球の高さは最低37cm、最高145cmのため、管球にぶつかって怪我をさせていただきました。設置時の構造上の問題もあり、位置を変えることが不可能なため、管球が患者様の動線上の障害とならないよう注意をしています。



毎月院内で発生したアットはっとりレポートの集計結果が各部署に配布され、スタッフ全員で回覧し押印し共通の認識とし不測の事態に対応ができるよう心がけています。

操作室の背面側は、ほぼ全面ガラス張りとなっており、津久井湖や山が間近に見える操作廊下となっています。



医療事業部 医療安全課

次は 徳島赤十字病院 からお知恵拝借！！

医療安全・知恵の輪！

～放射線部門安全編～

徳島赤十字病院 放射線科部 福永 愛 ☆ 松田 克彦

TEL 0885-32-2555

当院は、かつて「四国の東玄関」と呼ばれた人口約4万人の静かな港町、小松島市に位置しています。2006年には現在の新病院に移転しました。病院棟の外観は十字型、中庭には三日月形の池があり、上空から見たことはありませんが、赤十字と赤新月社のシンボルマークが特徴です。徳島の特色をいかした阿波踊り健診やお遍路健診なども行っており、地域に根付いた高度な医療を目指して、技師23名が日々の業務にあたっています。



ウチの取り組み！

造影剤使用による造影剤腎症（CIN）を予防するため、CT・MRIで造影検査のある患者様は基本的に全例腎機能の確認を行っています。

CIN発症のリスクは腎機能低下に応じて増加するので、造影前にできるだけ直近の腎機能を評価することが重要とされています。（当院では半年以内としています。）GFRの値に応じて補水を行うのですが、CT室の前に経口補水液の自動販売機を設置することで、患者様にすぐご利用いただけるようにしています。

腎機能に応じた対応マニュアル 2012

- 造影 CT 検査
- 70歳以上 → 造影前に経口補水 (OS-1 500ml)
- GFR:60未満 → 造影前に経口補水 (OS-1 500ml)
- GFR:30～39 → 造影前・後に経口補水
- GFR:30未満 → 主治医に確認
- 造影する場合は前・後経口補水を行う
- 検査後の腎機能 follow をしていただく
- 造影 MRI 検査
- GFR:30未満 → 造影禁忌 主治医連絡

事故防止に向けて！

造影CT検査を受けられる方には、前室で問診と血圧測定を行っています。患者様が持ってこられる予約票に単純撮影か造影撮影かは明記されていますが、文字が小さく同じサイズの用紙なので看護師からもわかりにくいという声があがっていました。

これを解消するため受付時に、単純CTの予約票は青、造影CTの予約票は赤のクリアファイルに入れてもらうことにしました。またCT撮影後に一般撮影やエコーがある場合のために、検査種をシールで貼ったクリアファイルも作成しました。このことが結果的に撮影間違い防止、撮り忘れ防止につながっています。



踊る血管くんから一言

日々慌ただしく業務をこなしていく中で、つい、うっかり…がないように、全員で安全な環境づくりに取り組んでいます。チームワークを大切に、がんばります！



医療事業部 医療安全課

次は 松江赤十字病院 からお知恵拝借！！